

公設国際貢献大学校（新見市哲多町田淵）の開設から10年が経過した。東日本大震災、中国・四川大地震など国内外の災害で物資を送るなど、救援活動の実績を積んできた。岡山発の国際貢献を担う

人材育成にも尽力。一方、地域医療・福祉の充実にも積極的に取り組み、過疎、高齢化の進む地域を支える存在となっている。（岡亮佑）

新見・国際貢献大学校開設10年

救援活動 人材育成 実績積む

東日本大震災の発生から一夜明けた3月12日。約5200点の救援物資を積んだトラックが、新見市の山あいを出発した。

大学校は通常なら、被災地の実態を独自に情報収集。必要な場所に、必要な物資を、必要なだけ繰り返し送るシャトル支援で救援活動に当たる。今回は特に

急を要すると判断。被災地向かいながら搬送先を決め、翌13日には福島県会津若松市の避難所に毛布やマ

国内外18カ所

大学校は2001年9月に開校した。04年の新潟県中越地震を皮切りに、サイクロン被害のミャンマー、

地域医療・福祉にも寄与



東日本大震災の被災地に届ける救援物資第3陣の仕上げをする公設国際貢献大学校スタッフら＝3月16日

豪雨災害に見舞われた鹿児島県奄美地方など、国内外の被災地計18カ所に対し救援物資を発送。東日本大震災では9月末までに19回、計約53万点を現地に運び込んだ。福島県南相馬市の避難所運営や、放射線物資を取り除く除染活動にも携わっている。

170人修了

人材育成では04年から県と連携し、国際救援活動をテーマに講座を実施。これまでに社会人、学生ら延べ1700人

チーム 公設国際貢献大学校（旧哲多町（現新見市）が誘致。少子化で廃校となった小学校跡に開校した。国際医療ボランティア・AMDA（本部・岡山市）グループが参画している。

が修了した。うち110人はボランティア組織「ももたろう国際救援隊」のメンバーとして活動している。

的野秀利・校営管理者（44）は「便利な都市部でなく、あえて中山間地で研修するからこそ、発展途上国などで通用する国際貢献の基本理念、専門的知識の習得につながる」と強調する。中学、高校生を対象とした担い手育成事業も

行っている。

世界も足元も

世界を見据えた活動ばかりではない。大学校の関連医療法人の国際貢献大学校医療機構が地域に根差した医療・福祉の充実にも力を注ぐ。

03年9月、新見市内唯一の産婦人科を備えた国際貢献大学校メディカルクリニック

る国際貢献大学校運営機構が指定管理者。常勤スタッフは的野秀利・校営管理者ら9人。設置者の新見市からの指定管理料、個人・団体からの寄付金などで活動している。

（同市哲多町本郷）を開院。今年8月末までに967人が産声を上げた。石垣正夫市長は「若い人が安心して出産できると好評だ。慢性的な医師不足に悩む市にとって欠かせない存在」と話す。

05年には介護老人保健施設すずらん（同所）も開所。少人数に分かれ、家庭に近い状態で暮らすユニットケア方式を県内で初めて本格的に取り入れた。

的野校営管理者は「グローバル化に伴い、国境を超えた迅速な支援がますます重要になる。一方、足元の地域では少子・高齢化が進んでおり、国際貢献と地域づくりを今後両立させるのが使命。岡山、日本の国際貢献の底上げにつながるよう活動をさらに充実させたい」としている。